

## ②舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」の取組

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 千歳川河川事務所  
北海道 長沼町

**キーワード** 舞鶴遊水地、タンチョウ、遊水地内での繁殖、地域活性化

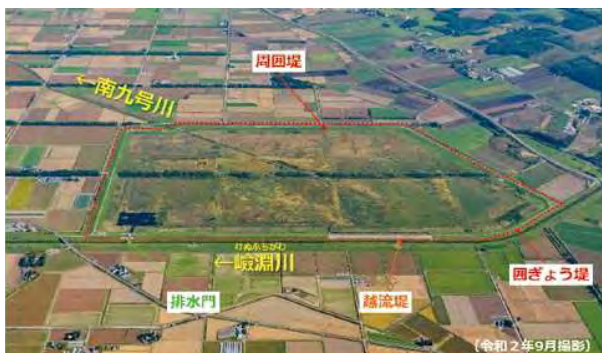
### 全建賞審査委員会の評価ポイント

舞鶴遊水地を軸としたタンチョウ生育環境構築とタンチョウをシンボルとした農産業・観光・住民参加の促進の取組。絶滅危惧種のタンチョウの営巣を復活させ、さらにタンチョウをシンボルにまちづくりを進めてきただけでなく、多様な主体の協働による地域の活性化にも広がってきている点が評価された。

### 1. はじめに

千歳川の治水対策として、平成20年度から千歳川遊水地群の整備に着手し、平成27年度には舞鶴遊水地、令和2年4月からは全ての遊水地において供用を開始したところである。

舞鶴遊水地では工事中の平成24年からタンチョウの飛来が確認され、平成26年度には「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」（以下、呼び戻す会）が立ち上がるなど、気運が高まり、平成28年9月、札幌開発建設部と長沼町が連携して「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」（以下、検討協議会）を立ち上げ取り組みを進めているところである。



舞鶴遊水地の状況

### 2. 事業の概要

検討協議会の目的は、「タンチョウの営巣」「対流促進型の地域形成」「地域経済の活性化」であり、舞鶴遊水地においてタンチョウが営巣できる良好な環境を維持しつつ、タンチョウの飛来する舞鶴遊水地を活用し地域活性化等に繋げるものである。

そのため、長沼町、北海道開発局、北海道、環境省、地域住民、長沼町内事業者、環境・生物等の学識者等の様々な関係者が参画する検討協議会での検討・情報共有を踏まえながら進めている。

### 3. 事業の成果

取組開始から5年目となる令和2年、目的の一つであるタンチョウの営巣・繁殖が確認された。タンチョウの繁殖は、札幌圏では100年以上ぶりであり、学識者からは遊水地のような人工的な湿地環境での繁殖はおそらく世界初と言われている。今年度もタンチョウのヒナが確認され、2年連続の遊水地内での繁殖に期待が高まっている。



タンチョウの親子（令和3年5月撮影）

タンチョウ繁殖のニュース以降、来訪者は増えており、タンチョウが安心して生息できる環境の維持のため、呼び戻す会や長沼タンチョウ見守り隊（地域住民有志により令和2年度に結成）により、タンチョウ生息状況確認や観察マナー啓発、遊水地来訪者に対する説明等が行われている。

平成30年度以降、長沼町内の事業者において、タンチョウをモチーフとした商品開発（ソフトクリーム、羊羹、長沼産ゆめぴりか100%使用の日本酒等）が行われ、令和2年12月時点で延べ15種類以上の商品が町内商店等で販売され、地域活性化にも寄与している。

### 4. おわりに

令和元年度と令和2年度には、札幌市内の商業施設マルヤマクラスにてブースを出展し、本取組のPRやタンチョウをモチーフとした商品の紹介・販売を行い、令和2年度は約840名の来場者があった。タンチョウの写真をパッケージに使用した新米が首都圏において完売するなど、本取組を道外へも普及させている。また、地元児童、生徒を対象とした環境学習や、子供たちによる観察マナー啓発活動等も行われている。これらの活動が継続・発展され、舞鶴遊水地と地域が一体となった環境保全・地域経済の活性化、そして対流促進型の地域形成が一層図られることを期待する。